計算科学アライアンス　海外派遣報告書

東京大学大学院理学系研究科物理学専攻
桂研究室　博士 3 年　吉岡信行

2019 年 7 月 7 日より 7 月 15 日にかけての 1 週間、計算科学アライアンスの海外派遣プログラムを利用して、統計力学における学会”StatPhys27”に参加するためブエノスアイレス(アルゼンチン)に滞在した。非常に多岐にわたる分野の発表、研究者との議論に溢れ、非常に意義深い滞在となった。

StatPhys は 3 年に 1 度開催される統計力学の学会であり、そのトピックは非平衡、アクティブマター、生物物理、ガラスなど非常に広範である。筆者は”General and mathematical aspects”のセッションにて、一般化イジング模型の等価変換によるボルツマン機械の導出および古典モンテカルロ・シミュレーションへの応用について口頭発表を行った。12+3 分と短い発表ではあったが、フラストレート系への適用可能性に関する質問などを含め、発表後の議論が白熱した。

StatPhys27 におけるバンケットにて。右から 2 番目が筆者。

上に述べた議論・学会発表・知的刺激はほんの一部であり、その全ては到底列挙できません。そんな素晴らしくも無茶な出張計画を可能にしてくださった、計算科学アライアンスの海外派遣プログラムに御礼申し上げます。特に、事務手続きを再三に渡りご教示してくださった喜田様に、この場を借りて深く感謝致します。どうもありがとうございました。